

自己評価および外部評価結果(杏)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者と家族に、より質の高い介護サービスを提供する為に、運営理念(会社及び事業所)、クレドの唱和を朝礼時に行っています。理念、クレドの考え方を意識した介護が取り組めるようにしています。	「その人らしさ」を一番のキーワードにし、1人ひとりの利用者に向けて目に向けた支援に努めている。年間目標の中に、掃除、人間関係作りを掲げ、実施できるよう具体的な話し合いを行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の愛育委員としての役割を担っており、町内会への参加を行い、地域の幼稚園への訪問や、地域の運動会への参加を行っています。	地域の小学4年生との交流会や幼稚園との交流など子どもとの触れ合いが継続している。クリスマス会など地域の方に声をかけており参加もある。町内の事業計画委員となっており、地域の運動会などへ参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護に対する理解を深めて頂いたり、興味をお持ち頂けるように、小学生との交流や地域の中学校のチャレンジワークの受け入れ、高校生の体験学習の受け入れをしています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の民生委員、地域住民、地域包括支援センター職員、ご家族にご参加頂き、サービスの提供状況についての報告や相談を行っています。地震発生時の対応について話し合い、ご意見をもとに対策に活かしています。	2ヶ月に1回、定期的で開催している。家族に声をかけているが、参加はまちまちである。内容は2ヶ月間の事業報告が主となり、地震対策や看取り支援について意見交換も行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者とは頻りに連絡をとり、介護保険に関わる情報の提供を頂いたり、入居時の受け入れ相談等を行っています。また、市の相談員の方の定期訪問があり、市町村担当者・相談員・事業所と懇談会に参加し意見交換を行っています。	市町村の開く年1回の交流会や介護相談員を含めた3者の懇親会などに参加し、情報交換をしている。地域包括支援センターから10歳いきいき体操の提案をもらい、ときどき実践している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内でマニュアルを作り、事業所内の研修にて身体拘束の研修を行い、身体拘束をしないケアを実践しています。	年1～2回、内部研修を実施し、身体拘束をしないケアを実践している。今年度は特にスピーチロックを意識し、職員に伝えている。やむを得ない状況を考えず、別の方法を皆で考えるようにしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内でマニュアルを作り、事業所内の研修にて高齢者虐待防止法の研修を行い、事業所内で虐待が起こらないように、また見過ごされないように徹底して注意を払っています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	本年11月に成年後見制度をご利用される方がおられましたので、制度についての研修を実施しています。また、玄関口には成年後見人制度のパンフレットを設置しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時や契約改定時には、ご家族様と重要事項説明書の読みあわせを行い、都度ご不明な点があればご説明をさせて頂いております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	社内の相談窓口、事業所内の相談窓口を設けており、意見箱の設置もしています。また、社内でご家族様アンケートを毎年実施しており、頂いたご意見やご要望に対する対策を職員で話し合いを行い、改善に向けた取り組みを行っています。	面会時や電話などで家族から意見や要望を聞いている。家族会はあるが、特に集会などはしていない。年1回の家族アンケート実施により、外にでる機会を増やしたり、掃除の方法を変更したりしている。	家族会を活かす取り組みとして、まずは家族会で集まる機会を設けてみてはどうでしょうか。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に1回、職員満足度アンケートを実施しています。毎月1回の全体会議やユニット会議でスタッフ同士の意見交換や提案を聞く機会を設け、反映させています。	月1回の全体会議、各ユニット会議にて職員からの意見や提案を聞いている。昨年度より園芸や動物、装飾、お茶菓子など担当制を開始し、職員の得意分野を活かした支援が展開されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の勤務の中で、職員個々の努力や実績、勤務状況の把握を行い、また定期的に個人面談を行い、各自が向上心を持って働いて頂けるように努めています。各自の個性や能力に応じた担当者制を導入しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修の参加を促し、回覧にて研修開催の案内をしています。参加終了後には、全体会議等で他のスタッフへの情報の共有を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	玉野市のグループホーム協議会が半年に1回開催されるので、毎回出席させて頂き、他のグループホームとの情報交換を行っています。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前のアセスメントに行かせて頂き、ご本人と面談をさせていただき、ご本人様が困っていることや不安なことなど傾聴する事で、安心して過ごして頂けるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前にご家族と面談を行い、困っていること、不安なこと、要望等をお伺いしながら関係作りに努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人・ご家族が必要としている支援を見極め、ご本人様にとってより良いものを提供できるようにしています。また、サービスの変更があった時などは、都度相談し、変更しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	長い人生経験の中で培われた知恵や教訓、料理や手芸を教えて下さったり、買い物では食材の選別の仕方をご教授頂くなど、暮らしを共にする関係を大切にしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と入居者が一緒にお過ごし頂ける時間を何よりも大切に考えています。事業所内の月行事や外食支援にお招きし、一緒にお過ごし頂ける機会を増やす工夫をしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居者に関わりのある方の面会については、ご家族の承諾を得て、馴染みの人との関わりが継続して行えるように支援しています。	地元のスーパーや飲食店に買い物に行ったり、外食に出かけたりしている。家族の協力により、自宅で過ごしたり、お墓参りに出かけたり、仕事をしていた頃の同僚が面会に来ている方もおられる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず に利用者同士が関わり合い、支え合えるような 支援に努めている	入居者同士が良好な関係が築けるように、 共同で洗濯物たたみの手伝いを行って頂い たり、各種アクティビティーの中で関わり の中で、お互いが支え合う関係が作れるよ うにしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関 係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族 の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後のご様子をご家族に確認させて頂い ています。ご家族の承諾を得て、転居先の 病院や施設へのご面会やお見舞いに伺わ せて頂いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握 に努めている。困難な場合は、本人本位に検討し ている	ご本人、ご家族のお話の中から、ご意向を お聞きしています。コミュニケーションの難し い入居者の把握についてはご家族の希望 や意向や生活歴から本人本位の支援が行 えるように努めています。	日常の会話の中から本人の思いや意向を把 握し、介護記録やユニット会議等で情報を共 有している。意志表示が困難な場合は家族 に本人の性格や習慣、生活歴などを聞き、判 断している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環 境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努 めている	入居時のアセスメントや面会時に、本人と家 族から生活歴や生活習慣等の情報収集を 行っています。入居前に介護サービス等 を利用されていた場合は、担当者から情報提 供書を頂き、これまでのサービス利用の経 過の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する 力等の現状の把握に努めている	各勤務に入る前の申し送りやカンファレンス 等で、日々の状態の把握に努めています。 そして、利用者様の少しの変化も見逃すこ とのないよう、スタッフ同士の情報の共有に努 めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方 について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、 それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即 した介護計画を作成している	ご本人やご家族の意向や要望を伺い、職員 で話し合いを行ったうえで、介護計画を作成 しています。	月1回カンファレンスにてケアマネージャー、 職員それぞれの視点から個別支援について 意見交換をしている。1週間毎にモニタリング を実施し、ケアプランを意識した支援を行っ ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を 個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら 実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の利用者様の行動や言動、また、利用 者様の状態は個別の介護記録に記入して います。バイタル・排泄情報・水分摂取表 は、情報共有が図りやすいように一覧表に して管理しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な体調不良時の受診の付き添いや、外出希望時の同行等、入居者やご家族のその時々状況に応じて支援を行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	傾聴ボランティアの訪問や、2～3ヶ月に1回の各種ボランティアの慰問など積極的に受け入れさせて頂き、地域との関わりの中で安全で豊かな暮らしを楽しむことができますようにしています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者やご家族の希望を伺い、訪問診療のご利用、あるいは入居前のかかりつけ医への受診をして頂いています。また、希望者には訪問歯科による口腔ケアのサービスも行っています。	入居時にかかりつけ医が決まっている場合はできるだけ継続しているが、協力医療機関による訪問診療を選択し、変更する場合もある。訪問看護も週1回あり、健康管理を行っている。基本的に受診支援は家族にお願いしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師の週1回の訪問により、日常の健康管理を行っています。情報提供書を活かし、事業所と看護師との情報共有を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には医療機関に情報提供を行い、入院中には担当看護師や相談員に様子を伺うなど、連携を図っています。退院時は、看護サマリーを作成していただき、円滑な受け入れができるように医療機関との連携を図っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期の意向を伺いながら、事業所で終末期ケアをご希望される場合は、医療機関、事業所、そしてご本人とご家族の間で十分な話し合いを行いながら、ご対応させて頂いています。	看取り支援について家族の希望があれば、できる限り対応していく方針である。入居時に、事業所でできることできないことなどの指針を説明し、同意書を書いて頂いている。看取り支援を行うときはカンファレンスを繰り返し、職員間で連携を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内にマニュアルがあり、そのマニュアルに沿って対応しています。また、緊急時に落ち着いてかつ適切な対応が行えるように、消防署主催の普通救命講習Ⅰの受講を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は、夜間を想定したものを含め年2回開催しています。地震時の対応については、運営推進会議や全体会議内で話し合いを行い、事業所の対応を検討しています。	年2回避難訓練を実施し、そのうち1回は消防署の参加もある。地域住民に応援要請後、どれくらいで事業所に行くことができるか等、実際に協力してもらい、時間を計測している。地震対策で防災頭巾を作り、用意しているが、まだ訓練は行っていない。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	全体会議や研修で、入居者に対する言葉遣いや羞恥心への配慮について考える機会をもち、尊敬の気持ちを込めた言葉遣い・対応を心掛けて行っています。	内部研修にて言葉遣いについて職員に伝え、それぞれ自分を振り返りレポートを書いている。毎月発行している新聞や研究発表、新聞の取材などその都度、写真等の使用同意書ももらっている。	利用者の居室内にパット類が無造作に置かれている状況がある。羞恥心に配慮し、目立たないような工夫をお願いしたい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の状態に合わせて、また、ご本人のわかる力に合わせてご自身で決めることができるように支援しています。耳が遠くコミュニケーションが難しい場合には、筆談でのコミュニケーションも取り入れています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の普段の生活のペースを把握しながら、おひとりお一人のペースに合わせた支援を心掛けています。アクティビティーの声掛けを行う際には、ご意向を確認しながら、その時々のお気持ちやご体調に合わせて柔軟に支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時・入浴後では、入居者のわかる力に合わせて衣服の選択肢の提供を行い、ご本人にお選び頂いて更衣して頂いています。また、整髪や髭剃りはできる力に合わせて支援を行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の個々のできる力に合わせて、食卓のテーブル拭きや下膳、食器洗い、お盆拭き、お茶の準備等のお手伝いをして頂いています。	管理栄養士が作成した献立をもとに調理担当職員が手作りで食事を提供している。テーブル拭きやお盆拭きなどお手伝いをしてもらっているが、調理に関して利用者が関わる所が少ない。ときどきおやつ作りは行っている。	食事の楽しみを増やすためにも、利用者も一緒に参加できる食事作りの機会を作って頂くことを期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ケア日報や水分摂取表を用いて、一日の食事量・水分量を把握し、個々の必要量が確保されるように努めています。また、体調に合わせて食事形態・内容を変更したり、補食でおぎなう等の工夫をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、洗面所に誘導し、口腔ケアを行って頂けるよう支援しています。また、食前に嚥下体操を取り入れたり、口腔内のトラブルが生じた場合には、週1回の訪問歯科診療の訪問により定期的な口腔ケアをうけて頂いている方もおられます。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄パターン、習慣の把握に努め、できる限りトイレで排泄ができるように支援しています。	個々の排泄リズムを把握するため、排泄チェック表を活用している。本人のタイミングに合わせて、事前にトイレ誘導を行うことで、日中はトイレで排泄できるよう支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品を定期的に飲食頂いたり、食前に健口体操と称して適度な運動を行い、自然な形で排便ができるように支援しています。排便チェック表を活用し便秘が続いた場合は、主治医の指示のもと整腸剤や下剤にてコントロールしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴支援を行っております。ご体調やご要望に合わせて清拭や足浴の対応をさせて頂いています。	週3回の入浴を基本としているが、夏場や本人希望があれば回数を増やすなど対応している。入浴を拒否される方がおられたが、今は声かけの工夫により、スムーズに入浴できている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムやその日の体調に合わせた支援を心掛けています。夜間、眠れない方への安眠方法として、暖かい飲み物の提供を行い、一緒に過ごしお話を傾聴するようにしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者個人ごとの服薬ファイルを作成し、全スタッフが把握できるようにしています。薬の副作用などの情報共有が行えており、特に薬の変更・中止・増減等があれば、普段のご様子とお変わりないか注意してご様子を観させて頂いています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	編物をして頂いたり、掃除の手伝いをして頂いたり、入居者の得意とされるものの情報をご本人やご家族にお聞きし、気持ちよく行って頂けるように支援をしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節毎の行事や食事会・ドライブなどで外出する機会を設けています。また、日常的に玄関前のテラスを散歩されたり、ベンチに座りくつろいでおられます。また、ご家族のご協力を頂いて墓参りに行かれる方もおられます。	朝、昼のゴミ捨てやお花の水やり、テラスでの日光浴など、外気にふれる機会を作っている。門からでるとすぐに坂道になっており、日常的な散歩は難しいが、家族の協力により外食やお墓参り、帰宅など行われている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは、ホーム内金庫でお預かりさせて頂いておりますが、ご本人の希望により、お財布に小額のお金をお持ちの方もおられます。その都度ご家族様に確認させて頂きながら支援しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者からの希望があれば、電話を利用頂けるように支援しています。ご家族に毎月お手紙をだされるご入居者もおられます。また、ご本人の希望により葉書を代理購入させて頂き、ご家族に葉書をだされる方もおられます。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や共用ホールには、季節感のある装飾を行い、その時々季節を感じて頂けるように工夫しています。また、わかりやすい目印や移動が行いやすい環境を心掛けています。	フロアは天井が高く、開放感がある。畳コーナーでは利用者が洗たくものをたたんだり、編み物をしたりしており、壁には季節を感じてもらえるよう、ちぎり絵など利用者の作品を飾っている。玄関で靴の消毒、1日2回の手すりやテーブルの消毒など感染予防にも配慮している。	収納が少ないこともありますが、全体的に雑然としており、いろいろな物がフロアに置かれている。整理整頓し、利用者を第一に考えた居心地のよい空間作りを期待したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用ホールのソファに座りくつろいでおられたり、時には、居眠りをされる入居者様もいらっしゃいます。そして、仲のよい入居者同士でご歓談をされたりと思い思いにお過ごしいただいております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	当ホームでは、ベット・ダンス・テレビ台は、備え付けですが、入居者の使い慣れたものを持ち込み頂き、できるだけ自宅に近い環境の中で居心地良く暮らして頂けるよう支援を行っています。	入居時に家族に環境が変わることはストレスが大きい為、できるだけ馴染みのものを持参してもらえよう願っている。室内の配置は本人が安全に移動できる動線を検討している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者一人ひとりのできる力・わかる力を活かして、本人が自分で行って頂けるように環境や条件を整える支援を心掛けます。居室やトイレがわかりやすいように目印を付けたり、個々の力に合わせたベッドの配置の工夫等行っています。		